

発行人 / 学園町自治会会長・荻野晶子
 企画編集 / 学園町自治会広報委員会
 編集長 / 浜名 純
 投稿・連絡先 / 学園町1丁目14番地31号
 電話 / 090-6005-7887

学園町 かわら版

117号



学園町HPは
こちらのQR
コードから

購読無料・各戸配布 / 隔月刊行

今年もかわら版を よろしくお願いします



午年クラフトは馬形埴輪です。馬具も忠実に再現された立派な馬の埴輪がモチーフとなっています。出土地は埼玉県熊谷市で、僕と出身が同じということなのでとても親近感があります(笑)。東京国立博物館のミュージアムグッズ・紙宝埴輪として販売されていますので、東博に訪れた際には覗いてみてください。

ちょっと先になりますが今年は何展を開催します！
 個展のお知らせ「ごとうけい紙工作展 2026」令和8年11月5日(木)～11月8日(日) 〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-20-1 吉祥寺永谷シティプラザ1F「ギャラリー永谷2」ヨドバシカメラ吉祥寺店のとなりです。皆様のご来場お待ちしております。

年頭の辞 学園町101年目のはじまり 自然に囲まれ笑顔で挨拶が行きかう町に

自治会長 荻野晶子

新年あけましておめでとうございます。学園町の皆さまにおかれましては、健やかに新春を迎えられたこと、ありがとうございます。

旧年中は、自治会活動に對しまして、組長を担っていただいた皆さまをはじめ、多くのご協力をいただき、ありがとうございました。

学園町自治会は、現在約630世帯から成っております。会費や募金の集金を決められた日に集められていることや、防災訓練における安否確認タグの取り組み、毎月の回覧へのご協力、日々の見守りや声掛けなど、皆さま一

人ひとりの支えがあつてこそ、学園町の落ち着いた暮らしと良好な住環境が保たれていることを、あらためて実感しています。

学園町は、2025年に誕生100年という大きな節目を迎えました。そして2026年は、101年目の年となります。

学園町は、緑豊かな住環境と住民同士のつながりを大切にしてきた地域です。一方で、近年は社会環境の変化や世代交代、災害への備え、不動産を巡る動きなど、私たちが向き合うべき課題も少なくありません。残念ながら、防犯に関するお知らせも、回覧板を通

じてお伝えする機会が年々増えてきているのが現状です。

また、2008年に制定した「学園町憲章」についても、時代の変化の中で、関わる立場や背景によって受け止め方に違いが生じています。また、定められている運営の考え方が十分に共有されていない状況が見られます。

昨年の年頭の辞では、米国における政権交代に触れましたが、世界は今後さらに混同とした状況へと進んでいく可能性があり、私たちにとつても、これまで経験したことのない世情に、向き合う一年となるかもしれません。

シンブルに、家の外は自然に囲まれていると願うとともに、町で行き交う方々とは笑顔で挨拶を交わせる間柄でありたいと願っています。

自治会運営に目を向けると、13名の運営委員の方々によって運営され、そして半年ごとに交代する組長さんがい

らっしゃいます。

この町に暮らす方々が、自分の町を良くしたいと言う想いでそれぞれに役割を担って下さっています。

自治会は、特別な誰かが担うものではなく、住民一人ひとりの「少しの関心」と「できる範囲での協力」によって成り立っています。無理のない形で、できるときに、できることを。そのような自治会活動を大切にしてまいります。

学園町がこれからも、安心して住み続けられる町であり続けることを願い、年頭のご挨拶とさせていただきます。

学園町も雪化粧

1月2日、東久留米市周辺は、冬型の気圧配置が強まり、午後は雪が降る真冬の寒さとなりました。学園町の家々の屋根も、庭も、道路も真っ白。雪化粧の三が日になりました。



第3次世界大戦を防ぐために 今、我々は何をなすべきか

現実から目をそらさない勇氣

日本経済新聞社・秋田浩之氏が講演

学園町誕生100年を記念した「第3次世界大戦を防ぐために」海外の取材現場より」と題する講演が、1月10日、自由学園記念講堂で開かれました。学園町自治会と自由学園が主催、日本経済新聞社の秋田浩之氏が講演しました。

秋田氏は、1987年に自由学園最高学部を卒業後、米ボストン大学大学院、ハーバード大学研究員を修了、日本経済新聞で政治部、北京、ワシントン支局などに勤務。2018年には、ボーン・上田記念国際記者賞を受賞しています。



ロシアによるウクライナへの侵攻、ガザを巡る中東紛争、アメリカによるベネズエラ攻撃やグリーンランドの併合問題などが起り、トランプ政権は自国ファーストに拍車をかけています。高市首相の発言を機に日中関係が悪化し、欧米からは第3次世界大戦の危険を警告する声が増えてきました。

こうした状況を踏まえ秋田氏は、世界はどこに向かうのかを海外取材をもとに読み解き、「不都合な真実や現実から目を逸らさず、適正に評価して先手を打つことが、戦前の失敗を繰り返さないために最も重要で」と述べました。

以下にその要旨をお伝えします。

大同土士の戦争がない80年間は異例であり、過去の歴史では、戦間期（戦争と戦争の間）がこれほど長く続いたことはありません。平和を維持してきた「核のタブー」も、プーチン大統領による核の脅しによって崩れつつあります。

そして、現在ウクライナで起きている戦争は欧州だけの問題ではなく、ロシア、中国、北朝鮮が密接に協力し、互いに利益を補完し合っている実態があります。北朝鮮は、ウクライナに兵士を派遣し、弾薬を提供する見返りに、ロシアから高度なミサイル技術や電子戦のノウハウを吸収しており、中国はロシアの武器生産に必要な半導体や工作機械の多くを供給し、見返りに原子力潜水艦やステルス技術などの軍事協力を得ている可能性があります。これが「欧州で始まった悪いことがアジアに波及する」という歴史的パターンが、現代でも再現されようとしているのです。

一方で、トランプ大統領の思考は「不動産屋・カジノ経営者のような弱肉強食の世界観」であり、実利的な「取引（ディール）」を優先し、自身の「縄張り」である西半球の安全や利益を最優先して、ウクライナや台湾についてもビジネス上の価値やコストで判断する傾向があります。

こうした厳しい現実を踏まえ、今、日本には①日米同盟を基軸としつつ、自らの防衛予算を増やして「安乗り」をやめる。②アメリカへの過度な依存を減らし、インドや韓国、豪州などと「有志のネットワーク」を作る（ただし、憲法9条の議論が不可避となる）。③イスラエルのように自力で徹底的に守る能力を持つ。④中国主導の秩序をある程度受け入れ、安全を優先する——という4つの選択肢が考えられます。このうち③の実現は簡単ではなく、④は日本にとって受け入れがたい選択肢でしょう。①の維持が難しくなっていくとすれば、②を追求することが現実的と考えられます。

秋田氏はこのように世界動向と日本の選択肢について分析、最後に「現実から目を逸らさず適正に評価して先手を打つこと」と述べました。参加した200人の人々は、複雑で緊迫した世界情勢を「自分のこと」としてとらえることの重要性を認識していました。

講演後のアンケートでは、戦後80年の平和を「例外的な期間」として捉える歴史的視点や、日本が直面する防衛の選択肢についての解説に強い感銘を受けたという声、自国を守る力の必要性についての意見が多く寄せられました。

自由学園からのお知らせ

■自由学園幼児生活団
幼稚園園庭開放について
日時：◆2月10日（火）10:00～12:00（お食事付き）◆3月2日（月）10:00～11:00 ※雨天時は自由学園みらいかんで実施します。
定員：各回10家庭
（幼稚園より）
2026年度入園の園児を追加募集しています。プレ幼稚園の入会も受付中です。プレ幼稚園について

ては、2月14日に説明会を開催します。お気軽にご参加を。

■自由学園初等部美術展
日時：2月14日（土）11:30～15:00。2月15日（日）9:00～12:00

■自由学園中等部・高等部
まなこれ一春
日時：3月7日（土）～8日（日）。探求、共生学での学びを皆様にお伝えするイベントです。

■自由学園中等部・高等部デイキャンプについて
日時：3月28日（土）
会場：自由学園キャンパス
春を感じるこの季節に、3万坪のキャンパスでデイキャンプしてみませんか。

※上記の各催し・イベントのお申し込みは自由学園HPからお願いします。詳細についてもHPに掲載しています。

※お問合せ先：自由学園広報室
TEL：042-428-2123
e-mail：kh@jyu.ac.jp
URL:https://www.jyu.ac.jp

■自由学園最高学部
卒業勉強・卒業研究報告会
日時：2月21日（土）8:50～16:30
会場：自由学園記念講堂
卒業年次生の研究成果を口頭発表します。詳細は学園HP参照。

※お問合せ先：自由学園学園長室
TEL：042-428-4232
e-mail:headoffice-info@jyu.ac.jp
URL：https://www.jyu.ac.jp

ウェルカム学園町

子どもがのびのび育つまちを探して

三原芳秋・明津子夫妻・咲穂ちゃんご家族

昨年12月19日(金)、学園町1丁目の一角で、今ではほとんど見られなくなった伝統行事「上棟式の餅まき」が行われました。間もなく学園町に引越してくる三原芳秋さんと妻の明津子さん、長女の咲穂ちゃんご家族が「施主」として催したものです。大工さんや設計に携わった人たち、そして近隣住民らが集まりました。「餅まき」ではなく、正確には明津子さんの生まれ育った富山県の蒲鉾(かまぼこ)がふるまわれました。芳秋さんは、東京大学を卒業後アメリカのコーネル大学で学び、学博士号を取得、帰国後は一橋大学教授などを経て現在は東京大学総合文化研究所准教授。英語圏文学・文学理論を専攻しています。明津子さんは富山県高岡市出身。銀行系シンクタンクで顧客向け雑誌を担当し、10年前に編集・ライター職で独立、旧姓の室谷明津子の名義で『暮しの手帖』などに執筆しています。ご家族にお聞きしました(文中敬称略)。

——なぜ学園町に引越そうと思つたのでしょうか。

明津子 子どもが生まれた時は三鷹に住んでいました。コロナ禍で公立の児童館なども閉鎖されており孤立生活を強いられていました。子どもが歩き出し走れるようになってきて、緑のあるゆつたりした環境で子育てをしたい、と思うようになりました。東久留米市などに友人がいたことや、夫の実家が西武線沿線の東大泉だったこと



一丁目・近藤正文氏撮影



から、この周辺を探していました。たまたま不動産探しの途中で自由学園しのみ茶寮のカフェに入ったのがきっかけで、この土地がい

——最近では珍しくなった上棟式を行つた動機や、それにいたる経緯などお教えてください。

芳秋 家づくりには、建築家の能作文徳さんと常山未央さんが携わってくれています。能作さんは、東京科学大学准教授で、妻と同じ高岡市出身。私も研究を通して知つていたので、共通の知人ということでお設計をお願いしました。常山さんは、能作さんとの共作もあり、現代都市と生態系の接点を探る建築家です。能作さんは、伝統的な大工技術と新しい技術を組み合わせたユニークな建築を目指し、それができる葉山の藤本工務店に施工をお願いしたところ、「それなら古くから伝わる日本の文化を子どもたちにも知ってもらいために、餅まき(蒲鉾まき)をやりたい」ということで今回の上棟式になりました。

明津子 上棟式には、能作研究室

の学生さんやインターンの留学生さんたちが多数集まつてくれました。そして、近所の住民の方々も来てくれて、打ち解けてお話をすることができると、皆さんとつながるよききっかけになりました。能作さんは、能登半島地震の復興支援として古材レスキューの活動を立ち上げています。氷見市で解体された家から出された木材を次の使い手につないでもらおうというものです。その一環で家づくりでは、DIYの要素も取り入れており、娘も私たちも材木を塗つたりする作業をしました。その過程で自分の家、自分の町という意識が醸成されてきました。

——最後に、学園町へのメッセージがあつたらお聞かせください。

明津子 ひばりが丘団地に住んで、六仙公園で毎年開催される「麦の収穫祭」などを通じて地域の人のかかわりが増えました。学園町に引越してから近隣の皆さんと良いお付き合いができればと思います。

芳秋 学園町は、遠藤新とその息子、遠藤榮、遠藤陶による住宅(群)で、「モダン・ムーブメントの建築」に選定されていますが、我が家の設計に携わった能作さんは、そんな学園町にこの住宅を加えてもらえて光栄です、と語っています。

学園町憲章の精神に則り周囲の環境保全に努めたいと思います。——ありがとうございます。

南部地域センターからのお知らせ

※各イベント問い合わせは南部地域センター(指定管理者(株)セイウン) ☎042-451-2021
Mail higashikurume_nanbu@seuin.co.jp

- ★「南部野菜市」
- ・2月10日・17日・24日・3月3日・10日・17日・24日・31日・4月7日
- ・協力：(株)グルッペ
- ★「シニアヨガ」
- ・2月13日・27日・3月13日・27日・4月10日
- 1部 10:00～11:00
- 2部 11:30～12:30

- ・参加費：700円(当日払い)
- ・対象：65歳以上。
- ★「介護予防・きくちゃんの脳トレ体操」
- ・2月15日・3月1日・15日・4月5日・参加費：100円

- ★「お宝いっぱい!」「まあぶるミニバザー」
- ・2月17日・3月17日
- ・問合せ：(社福) すぎのこまあぶる ☎042-473-5896
- ★「バクさんどうたおうー!」
- ・2月22日・3月29日。開演13:30・参加費500円

- ★「なんぶおしゃべりサロン」
- ・3月1日(日)・4月5日(日)13:30～15:30

70年前の東久留米に咲いた「小さなアメリカ」 — 進駐軍時代の記憶を紡ぐ日曜学校の物語 —

終戦からわずか3年後の1948年(昭和23年)。日本全体が占領下の混乱と困窮の中にあつた時代、学園町に最初に建てられた住宅・左近(さこん)家※には、ひそやかに「小さなアメリカ」が息づいていました。

当時、この近隣には教会がありませんでした。左近家では、娘の和子さんに聖書の教えに触れさせたいと願っていました。一人で学ばせるよりも、友だちと一緒に楽しく学ばせてあげたい——そんな思いから、学園町に住む子どもたち20人ほどが集まり、左近家で毎週「日曜学校」が開かれるようになったのです。

その記憶を懐かしみ、今年1月のある土曜日、当時のメンバー11名(いずれも80歳以上)が再び左近家に集いました。

驚くべきことに、当時の日曜学校で歌われていた讃美歌はすべて英語。70年以上の歳月を経た今も、集まった人々は自然と英語で讃美歌を歌い始めました。

さらに驚かされるのは、当時の日曜学校で行われていた教育の質の高さです。現代の英会話教室も顔負けするほどの、徹底した「音へのこだわり。指導にあたっては故・左近孝枝氏は、近所の子

もたちに対し、英語の発音を非常に丁寧かつ厳密に教えていたといえます。

「とにかく発音でした。下唇の使い方、*ㄱ*や、*ㄴ*の音……本当に懇切丁寧な指導でしたよね」

意味を理解する以前に、英語を「正しい筋肉の動かし方」として体に叩き込む——そんな教育が行われていたのです。

今回の再会で、最も心を打たれたのは、70年以上経った今もなお、彼らが英語の讃美歌を正確に覚えていたことでした。

また当日は、当時左近家で配られていた、アメリカから直輸入された教材カードを大切に保管していたメンバーが、それを持参しました。物資が乏しく、すべてが灰色に見えたであろう昭和20年代。海を越えて届けられたカードには、当時のアメリカの教会の様子が、色鮮やかに愛らしい洋服を着た人々の姿が描かれていました。「当時は、こんな見たことなかった」

これらのカードは、単なる教材ではなく、当時の子どもたちにとって、未来への希望を映し出す「魔法の窓」だったのかもしれない。故・左近孝枝氏がまいた小さな種は、70年の時を経て、可能



な限りのメンバーが再び学園町に集い、当時は懐かしむという形です。実を結びました。

いつか子どもたちが、海の向こうの世界と対等に向き合えるように——それは、一人の母であり、日曜学校の指導者であった故・左近孝枝氏が込めた、深い愛の形だったのではないのでしょうか。

自分の中にある大切な記憶や教えを、もう一度丁寧に紡ぎ直してくれ、冬の日の学園町でのひとときでした。(荻野晶子)

※左近(さこん)家

左近家は、日本のプロテスタント(日本基督教団)の牧師・神学者を輩出してきた、キリスト教の著名な家系。現在は3代目・左近和子さん、4代目・左近豊氏(青山学院大学・旧約聖書学教授)が学園町に在住。故左近孝枝氏は和子さんのお母様であり、日曜学校の指導者。

学園町誕生100年記念 クリスマスコンサート

学園町自治会誕生100年企画第3弾と銘打った学園町自治会主催の「クリスマスコンサート」が、昨年12月20日(土)午後2時から、自由学園記念講堂で催されました。演奏したのはチェロの山澤慧さん、ヴァイオリンの花岡沙希さん、ピアノの原田ひかりさん。

山澤さんは、東京藝術大学大学院を修了し、藝大フィルハーモニア管弦楽団首席チェロ奏者。現代音楽コンクール第1位など多数の賞を受賞しています。花岡さんは、3歳からヴァイオリンを始め、東京藝術大学を経てリスト音楽院修士課程修了。ハンガリーの国際コンクールで第1位になるなど多くの賞を受賞し、現在は東京室内管弦楽団第2ヴァイオリン首席を務めています。原田さんは、東京音楽大学大学院音楽研究科を修了。現在は、東久留米市でピアノ教室「tonowa」を主宰しているほか、合唱団との共演など地域に根ざした音楽活動を行っています。

この日は、バッハの「主よ、人の望みの喜びよ」をはじめ、サンサーンスの「白鳥」、コダーイの「ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲より第一楽章」、チャイコフスキーの「くるみ割り人形」

「ワルツ・スケルツォ」を演奏。休憩をはさんで坂本龍一の「戦場のメリークリスマス」、モリコーネの「ニューシネマパラダイスメドレー」、ハイドンの「ピアノ三重奏曲第39番」のあと、最後に皆さんの知っているクリスマス曲などのクリスマス・メドレーで締めくくりました。

シニアから子どもまで178名(自治会スタッフ、出演者およびその家族は除く)が参加、一足早いクリスマスのごときを堪能していました。

この日午前中には、自由学園記念講堂で「こどもコンサート」も開かれました。山澤さんと花岡さんが出演したほか、自由学園初等部5年生の太田毅一君と中等部3年の真野光太郎君の二人がゲストとしてチェロを演奏しました。

この午前の部には大人81名、子ども78名の計159名が参加しました。

